

慢性腎臓病(CKD) 早期発見・早期治療を!

国保で HOT情報

慢性腎臓病(CKD)について

現代社会において、新たな国民病と呼ばれる慢性腎臓病(CKD)の患者数が毎年増加しています。CKDの原因やその予防法はどういったものなのか。重症化を防ぐためにも今知っておくべき「慢性腎臓病(CKD)」について、鹿児島市立病院 腎臓内科 野崎剛先生にお話を伺い、2月8日にお伝えしました。



発症予防・重症化予防には生活習慣の改善と特定健診の受診による早期発見が大切と話す野崎剛先生

成人の8人に1人が該当する
CKD

今日は慢性腎臓病、CKDについて、ということなんです。これはどのような病気なんでしょうか?

野崎先生/腎臓の病気です。検尿検査で尿蛋白が出る状態、もしくはeGFRという指標で表される腎機能が60という数値を切った状態が持続することを慢性腎臓病、CKDといいます。

CKDは透析療法を受けるような腎不全に至る危険性が高いだけでなく、心臓や脳血管疾患などの危険性も高くなることがわかっています。

成人の8人に1人、1300万人以上がCKDに該当すると考えられています。

慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease)

下記の1、2のいずれか、又は、両方が3カ月間以上持続することで診断される

1. 尿異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在が明らか、特に0.15g/gCr以上の**蛋白尿**(30mg/gCr以上のアルブミン尿)の存在が重要
2. 糸球体濾過量(日常診療では**eGFR**)が**60**(mL/min/1.73m²) **未満**

血清クレアチンと年齢、性別から推定した数値です

そんなに多いんですね。ところでeGFRって何でしょうか?

野崎先生/血清クレアチニンという、採血でわかる数値と、年齢、性別から計算した腎機能の推定値です。

たとえば、その数値が50だったら、若いときの50%程度の腎機能だと考えて頂ければわかりやすいです。

生活習慣病を原因とする
CKD

CKDにはどんな原因があるのでしょうか?

野崎先生/多いのは高血圧や糖尿病などの生活習慣病によるものです。

腎臓は小さな血管できているので、血管を傷つける高血圧や糖尿病による障害を受けやすいのです。

また、免疫の異常からおこる腎炎も重要です。

透析導入まで至るものとして多いのは、糖尿病性腎症が一番多く、2番目に慢性糸球体腎炎、3番目に高血圧からの腎硬化症の順となっています。

治療と予防について

ではCKDになってしまった場合、治療はどうしたらよいのでしょうか?

野崎先生/血圧や糖尿病などによるものは、その病気の治療を行うことにより、進行を遅らせることができます。

腎炎は早期なら治療で完治させることもできます。いずれにしても進行してからで

CKDの原疾患

- 高血圧症
- 糖尿病
- 慢性糸球体腎炎

透析導入の原疾患としては

- 1位：糖尿病性腎症（42%）
- 2位：慢性糸球体腎炎（16%）
- 3位：腎硬化症（高血圧によるもの）（16%）

CKDの危険因子 ➔ 生活習慣(病)によるものが多いです！

- 高血圧
- 糖尿病
- メタボリックシンドローム
- 脂質異常
- 喫煙
- 薬剤(痛みどめ、解熱剤、造影剤)
- 加齢
- 家族歴



まずは生活習慣の改善を！

健診での早期発見も重要です！

は治療が難しくなるので、早めに治療を始めることが重要です。
**予防するにはどうしたらよ
いでしょか？**

野崎先生／CKDには危険因子
があります。

高血圧や糖尿病、メタボリック
シンドローム、悪玉コレステロー
ル高値などの脂質異常、喫煙、痛

み止めや造影剤等の薬剤などで
す。

まずは生活習慣を改善されてく
ださい。

また、CKDは末期になるまで
症状が出ないので、特定健診など
の健診を受けて、早期にCKDを
発見することも重要です。